

# テーマ番号及びテーマ名：5. 人材交流による産学連携教育

## 取組名称：産学連携によるプライマリ・ケア医学教育

取組担当者：滋賀医科大学 医学部附属病院(総合診療部)教授 三ツ浪 健一

e-mail ; mitunami@belle.shiga-med.ac.jp

### 取組の概要

従来の医学教育により、高度で細分化した専門医が多教育成されてきました。これは医学の発展の上で高く評価できることですが、一方で、自らの専門分野以外には対応できない、あるいは対応しようとする医師が増加し、社会の不満や訴訟も増加しています。このため近年では、一般医として幅広く全人的に診療できるプライマリ・ケア医を育成することが重要である、という認識が広がっています。

この現代的医学教育ニーズに対応する本取組は、地域保健・医療を担う地域医師と連携し、プライマリ・ケア医を教育担当者として日常的に、卒前および卒後の医学教育に組み込むことにより、プライマリ・ケアの卒前医学教育・卒後臨床研修、そして地域保健・医療を担うプライマリ・ケア医の生涯教育を充実させ、地域保健・医療レベル全体を向上させようとする体制の構築と教育プログラムの実践を展開しようとするものです。



### 実施計画

平成16年度には、滋賀医科大学医療人育成教育研究センターおよび医学部附属病院卒後臨床研修センターを中心に、滋賀県医師会新医師臨床研修制度検討委員会と相談のうえ、医学生臨床実習および研修医研修協力診療所を確保する。医学生臨床実習については協力診療所が整い次第、1週間ずつ1診療所に1学生を派遣して実習を行わせる。本年度はまず隔週で5人ずつの学生を派遣する。

年度末には卒前臨床教育を担当するプライマリ・ケア現場の医師と大学の医療人育成教育研究センター教職員が集まり、卒前医学教育検討会を開いて問題点や改善点を討議する。併せて「聴いた翌日から役に立つような実践的な講習会(リフレッシュ・セミナー)」をも開催する。

平成17年度には、新医師臨床研修制度による地域保健・医療研修が開始されるので、前年度の医学生臨床実習に加えて、協力診療所における研修医研修を開始する。

各研修医は4週間の地域保健・医療研修のうち、3週間を保健所、1週間を協力診療所で勤務する。卒前および卒後臨床教育を担当するプライマリ・ケア現場の医師と大学の医療人育成教育研究センターおよび卒後臨床研修センター教職員が集まって問題点や改善点を検討する卒前・卒後医学教育検討会を3ヶ月に1回開催し、併せてリフレッシュ・セミナーを開催する。そのうちの1回は国外より招聘した著名なプライマリ・ケア専門医による講演会とする。

平成16年度、平成17年度の2年間で本体制を確立し、以降、さらなる充実を目指す。



講習会「診療所における第5学年学生臨床実習の教え方」

### 進捗状況

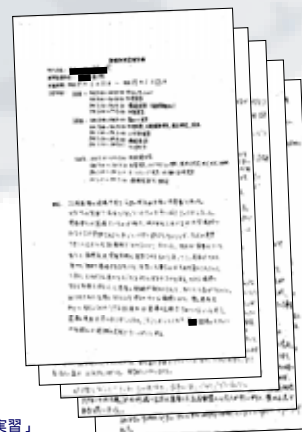
平成16年11月中旬  
実習協力診療所等98施設を確定

平成16年12月16日(木)  
「診療所における第5学年学生臨床実習の教え方」開催  
既に学外臨床実習として滋賀医科大学学生の教育を担当している地域診療所の先生方を講師に、地域の診療所等における学生教育の実際について、質疑応答を含めお話をいただいた。

平成17年1月11日(火)より順次  
臨床実習中の第5学年学生を地域診療所へ派遣、実習実施  
5人/1グループ×6時間/1日×4日/週を1~3月に5グループで実施(学生からの報告書参照)

平成17年2月6日(土)  
滋賀県下の診療所等の医師を対象に  
「聴いた翌日から役に立つような実践的な講習会(リフレッシュ・セミナー)」を開催  
テーマ：「小児のプライマリ・ケア：小児急性呼吸器疾患(ガイドラインを中心に)」  
「小児の救急医療体制と救急医療：発熱と熱性けいれんを中心に」  
「腹部エコーと頸部血管エコーのこつ(実習を含む)」  
「臨床機能訓練室(Clinical Skills Laboratory)での、超音波トレーニングシミュレータ UltraSim 体験実習」

現在、平成17年度の医学部学生の实習と研修医の研修に向けて準備中



診療所実習中に患者さん宅での訪問診療を経験する実習生



今回導入の「超音波トレーニングシミュレータ Ultra Sim」



「リフレッシュ・セミナー」での「エコー実習」患者役は本学学生と研修医



「リフレッシュ・セミナー」での「超音波トレーニングシミュレータ体験実習」



診療所で地域の患者さんを診察する実習生